



東証JASDAQ上場

## 平成28年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年10月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブロッコリー

コード番号 2706 URL <http://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 知治

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6892-2077

四半期報告書提出予定日 平成27年10月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年2月期第2四半期の業績(平成27年3月1日～平成27年8月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第2四半期	2,802	△9.1	335	△58.3	331	△58.9	212	△57.9
27年2月期第2四半期	3,084	△7.0	806	△25.3	805	△25.3	505	△48.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年2月期第2四半期	6.50	—
27年2月期第2四半期	15.45	—

## (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年2月期第2四半期	4,910		3,988			81.2
27年2月期	5,236		3,988			76.2

(参考)自己資本 28年2月期第2四半期 3,988百万円 27年2月期 3,988百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年2月期	—	0.00	—	6.50	6.50
28年2月期	—	0.00	—	—	—
28年2月期(予想)	—	—	—	4.00 ～5.50	4.00 ～5.50

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

## 3. 平成28年2月期の業績予想(平成27年3月1日～平成28年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,900 ～6,300	△5.7 ～0.7	900 ～1,200	△38.8 ～△18.4	900 ～1,200	△39.4 ～△19.2	600 ～800	△33.7 ～△11.6	18.33 ～24.44

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年2月期2Q	32,738,211 株	27年2月期	32,738,211 株
28年2月期2Q	1,323 株	27年2月期	1,323 株
28年2月期2Q	32,736,888 株	27年2月期2Q	32,736,888 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費が回復基調で推移しており、また一部企業においても輸出や設備投資が増加していることで、緩やかな拡大が続いております。海外においては、米国経済が個人消費を中心として伸びた一方で、欧州経済は、低成長率にとどまりました。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンやタブレット等のスマートデバイスにおいて、端末自体の性能進化・通信インフラの発達に伴って、コンテンツの多様化が進んだ結果、普及台数は着実に増加しており、世界規模でのユーザー数の拡大が期待されております。また、ゲーム専用機やブラウザゲームも、依然として底堅い人気に支えられおり、業界自体の多様化・拡大が続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、コンテンツ部門では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』の売上拡大、5周年を契に“ムーブメント化”に全力を上げる ②『うたの☆プリンスさまっ♪』に並ぶ自社コンテンツの創出に向けた体制の整備 ③トレーディングカードゲーム『Z/X(ゼクス)』の更なる挑戦と、新シリーズ制作に向けた人員育成の3点、リアルグッズ部門の自社ライセンス製品では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』5周年とTVアニメ3期の最大活用 ②メジャータイアップの実現 ③高価格帯ラインナップの展開と品質管理の確立の3点、他社ライセンス製品では、①ライセンス獲得強化 ②新定番ラインナップの創出とブランドアイテム化の2点、管理部門では、①福利厚生的高度化 ②自社ビルの収益化 ③BCP準備資金の内部留保推進と、災害演習のレベルアップ ④法務部門の機能強化の4点をそれぞれ今期の課題として推進しております。

次に、当第2四半期累計期間における部門毎の状況は以下のとおりであります。

#### (コンテンツ部門)

当社女性向けコンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』では、プレイステーションポータブル専用ソフト『うたの☆プリンスさまっ♪ All Star After Secret』を3月12日に発売し、関連作品のバックオーダーも堅調に推移しました。『うたの☆プリンスさまっ♪』関連では、4月から6月にかけてTVアニメ第3期『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ』が放映されましたことと連動いたしまして、『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ アイドルソング』CDシリーズとして、4月22日の『クロスユニットアイドルソング 一十木音也・四ノ宮那月』から、6月3日の『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ アイドルソング 寿嶺二』まで計7作品を発売いたしました。このCDシリーズは、オリコン週間シングルランキングにて全てTOP10入りするなど、好調に推移しております。

その他の女性向けコンテンツでは、株式会社MAGES. 原作の『明治東京恋伽』シリーズ第2弾、プレイステーションポータブル専用ソフト『明治東京恋伽 トワキライト・キス』を4月23日に発売しております。また、当社初の男性専属アーティスト蒼井翔太も、4月22日に1stフルアルバム『UNLIMITED』を発売し、オリコン週間アルバムランキング7位にランクインしており、5月には、2nd LIVE 『UNLIMITED』をTOKYO DOME CITY HALLで開催し、約4,000名を動員しております。

一方、スマートフォン向けゲームアプリ『うた☆プリアイランド』は、新機能の追加やコンテンツの拡充等、継続的なアップデートを行い、ユーザー数の維持・拡大に努めてまいりましたが、依然として低調な課金率が続いております。今後のゲームアプリTOTALの戦略は、より音楽性やゲーム性を追求し、顧客満足度が高く、収益の柱の一つとなるような新規タイトル投入を目指してまいります。

また、当社男性向けコンテンツでは、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)』シリーズのブースター第12弾『魔蟲の人形姫 (まこのにんぎょうひめ)』を4月23日に、第13弾『変革の疾風 (へんかくのかぜ)』を7月16日に、EXパック第5弾『蒼海の大決闘』を8月20日に計画どおり発売いたしました。昨年以來の競合他社タイトル発売の中、苦戦が続いております。しかしながら今夏には、『Z/X(ゼクス)』のティーチングを行う初心者体験会や交流会、多人数参加型の新機軸対戦形式『レイドバトル』を行うイベント『Z/X(ゼクス) イグニッションキャラバン』を展開しており、イベントを通じて着実にユーザーのすそ野を広げることと、唯一無二の新拡売策を実施することで、来年への反撃体制を整えております。カードサプライ製品では、既存市場において類似商品による飽和状態が続いております。この為の施策として、下期よりシェア拡大に向けた新市場の開拓と人的パワーの強化を行ってまいります。

#### (リアルグッズ部門)

他社ライセンス製品は、男性向けコンテンツ市場がヒット作品に恵まれ活性化している事に伴い、新規アイテムの発案・発売により、好調に推移いたしました。

また、自社ライセンス製品では、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズがTVアニメ第3期放映に伴い、店頭や通販での販売を強化したこと、7月25日に東京ビッグサイトで開催した『うたの☆プリンスさまっ♪』5周年記念イベント『シャイニングストアサテライト』及び、東京原宿で7月26日から開催中のコンセプトショップ『シャイニングストア』において大々的に展開したことにより、ほぼ計画どおりに推移しておりますが、過去最高売上を記録した昨

年度売上の推移には至っておりません。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,802百万円（前年同期比90.9%）、売上総利益率は34.8%（前年同期比12.3ポイントダウン）、売上総利益は974百万円（前年同期比67.0%）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、638百万円（前年同期比98.6%）となりました。

これらの要因によりまして、営業利益は335百万円（前年同期比41.7%）、経常利益は331百万円（前年同期比41.1%）、四半期純利益は212百万円（前年同期比42.1%）と前年同期比では前第2四半期累計期間を、大きく下回って推移しております。総じて、当第2四半期累計期間は、他社ライセンス製品など好調に推移する部門がある反面、低調な部門の売上を補うまでには至りませんでした。主力商品の発売を下半期に比重を置いて予定していること及び、前述のアイテム別施策により、下期～来期に向けて、収益拡大効果を生み出す体制を整えております。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は2,670百万円で、前事業年度末に比べ460百万円減少しております。現金及び預金の減少69百万円、売掛金の減少484百万円、商品及び製品の増加24百万円、仕掛品の増加33百万円が主な要因であります。

#### (固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は2,239百万円で、前事業年度末に比べ134百万円増加しております。有形固定資産の増加137百万円が主な要因であります。

#### (流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は874百万円で、前事業年度末に比べ334百万円減少しております。買掛金の増加11百万円、未払法人税等の減少345百万円が主な要因であります。

#### (固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は47百万円で、前事業年度末に比べ8百万円増加しております。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は3,988百万円で、前事業年度末に比べ0百万円増加しております。これは、四半期純利益212百万円が計上された一方で、剰余金の配当212百万円が行われたことが主な要因であります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて69百万円減少し1,583百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは368百万円の資金の増加（前年同四半期累計期間は307百万円の資金の増加）となりました。その主な内訳は、たな卸資産の増加額56百万円、法人税等の支払額469百万円などのマイナス要因と、税引前四半期純利益331百万円、減価償却費115百万円、返品調整引当金の増加額9百万円、売上債権の減少額484百万円、仕入債務の増加額11百万円などのプラス要因であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは216百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は405百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出201百万円、無形固定資産の取得による支出23百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円などのマイナス要因と、預り保証金の受入による収入18百万円などのプラス要因であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは221百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は428百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額211百万円、リース債務の返済による支出10百万円であります。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年2月期につきましては、前述いたしました「今期の課題」を掲げ、「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の2つを両立する事業戦略（ツインエンジン化）をより強固かつ安定的なものとするべく推進してまいります。

通期業績予想及び配当予定につきましては、以下の「※レンジ形式の業績予想及び配当予定について」に記載しております内容に基づき、サマリー情報記載のとおりレンジ形式での表示といたします。

#### ※レンジ形式の業績予想及び配当予定について

「ツインエンジン」を事業戦略とする当社の売上構成は、

- A. マーチャンダイジング、マーケティングの手法が比較的通用し、努力度やPDCA等の成果が売上と利益に反映されやすいグッズ部門
- B. ユーザー評価は、その感性に委ねられ、まさに発売してみないと市場の反応が判別できないコンテンツ部門に大別されます。

更に、コンテンツ部門におきましては、売上の振れ幅に加えて、その販売数量により利益率が大きく上下します。よって当社は、期初から第2四半期終了時までは売上・利益・配当ともにレンジ形式での予想数字として、期末に近づき数字の確実性の増す第3四半期終了時に、単独数字での発表を予定しております。ただし業績の進捗を踏まえ、前述の期日以前に合理的な算定が可能になった場合には、その時点で速やかに開示いたします。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成27年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,852,997	1,783,991
売掛金	877,470	392,881
商品及び製品	126,762	151,712
仕掛品	100,105	133,517
原材料及び貯蔵品	3,414	1,464
その他	170,472	207,378
流動資産合計	3,131,222	2,670,944
固定資産		
有形固定資産		
建物	960,714	1,119,936
減価償却累計額	△26,038	△51,917
建物(純額)	934,676	1,068,018
土地	907,414	907,414
その他	79,020	89,705
減価償却累計額	△49,557	△56,538
その他(純額)	29,462	33,166
有形固定資産合計	1,871,553	2,008,600
無形固定資産	157,886	98,158
投資その他の資産		
その他	77,727	134,747
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	75,727	132,747
固定資産合計	2,105,168	2,239,506
資産合計	5,236,390	4,910,450
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	315,905	327,757
未払法人税等	473,258	127,729
返品調整引当金	34,978	44,149
賞与引当金	29,000	57,538
役員賞与引当金	37,000	7,400
その他	318,971	309,887
流動負債合計	1,209,113	874,462
固定負債		
その他	38,612	47,197
固定負債合計	38,612	47,197
負債合計	1,247,726	921,660
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,775	331,775
資本剰余金	37,127	37,127
利益剰余金	3,619,618	3,619,592
自己株式	△478	△478
株主資本合計	3,988,043	3,988,017
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	621	773



評価・換算差額等合計	621	773
純資産合計	3,988,664	3,988,790
負債純資産合計	5,236,390	4,910,450

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
売上高	3,084,246	2,802,148
売上原価	1,630,693	1,827,759
売上総利益	1,453,552	974,388
販売費及び一般管理費	647,195	638,403
営業利益	806,357	335,984
営業外収益		
受取利息及び配当金	514	481
不動産賃貸料	-	9,618
その他	121	2,017
営業外収益合計	636	12,117
営業外費用		
支払利息	944	829
不動産賃貸費用	-	16,065
その他	162	45
営業外費用合計	1,107	16,940
経常利益	805,886	331,161
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前四半期純利益	805,886	331,161
法人税等	300,053	118,397
四半期純利益	505,832	212,763

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	805,886	331,161
減価償却費	14,747	115,702
賞与引当金の増減額(△は減少)	44,824	28,538
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△41,000	△29,600
返品調整引当金の増減額(△は減少)	701	9,171
受取利息及び受取配当金	△514	△481
支払利息	944	829
固定資産除売却損益(△は益)	0	-
売上債権の増減額(△は増加)	△118,749	484,589
たな卸資産の増減額(△は増加)	△151,384	△56,411
仕入債務の増減額(△は減少)	83,373	11,852
その他	△152,242	△57,178
小計	486,585	838,174
利息及び配当金の受取額	514	481
利息の支払額	△944	△829
法人税等の支払額	△178,776	△469,185
営業活動によるキャッシュ・フロー	307,379	368,639
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△100,000	△200,000
定期預金の払戻による収入	100,000	200,000
有形固定資産の取得による支出	△379,236	△201,194
無形固定資産の取得による支出	△14,709	△23,000
長期前払費用の取得による支出	△11,073	△11,065
預り保証金の受入による収入	-	18,909
その他	△69	△28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△405,089	△216,379
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△420,098	△211,080
リース債務の返済による支出	△8,460	△10,186
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428,559	△221,266
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△526,268	△69,006
現金及び現金同等物の期首残高	3,084,135	1,652,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,557,866	1,583,991

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。